

真高寺だより

第19号 平成25年1月1日発行

発行所：真高寺（伊澤孝順住職）

住 所：市原市飯給1143

電 話：0436-96-0058

*発行責任者 根本 貞夫

*編集責任者 木村 孝一

謹賀新年



(写真提供：山内憲章氏)

10年先を考えよう

総代会長 根本 貞夫



あけましておめでとうございます。どうか本年が私たちにとって、幸せなより良い年となりますよう祈念しております。

それにしましても、毎年内閣は変わり先行きの分かりづらい時代が続いています。しかし長い日本の歴史を辿れば、むしろこうした時代の方が普通であって、先々のことがしっかりと予見出来て、その通りに進むことが出来た時代の方がむしろ稀でした。そうであればこそ、色々な宗教が悩み

多きそれぞれの時代の心の羅針盤としての役割を背負って誕生して来たとも言えます。

さて、私たちの住む南市原の加茂地区は、今年大きな節目を迎えます。一つは圏央道の開通に伴う市原鶴舞インターの完成です。このことで、加茂地区は市の中心地である五井などよりも都心部へのアクセスが飛躍的に向上します。また国際空港である成田と羽田の中間地域に当たることから、市原市の山奥という従来の立場が逆転して、市原市で最も国際空港に近いという地理的条件に恵まれた地域となります。今一つは市原市が市制施行50周年を迎えることです。市ではこのことを記念して大規模なアートフェスティバル、「中房総国際芸術祭・いちばらアート×ミックス」を26年の3月21日から5月11日迄の52日間開催する予定です。市ではこの間に20万人以上の人々が訪れると予想しています。

こうした状況を踏まえて、昨年から加茂地区の町会長会が中心となりながら、各種団体や有識者で「加茂地区長期戦略ビジョン」作りに取り組んでいます。これは他所から訪れた人々が是非また訪れたい、そしてやがて住んでみたいと思われるような地域作りを目指す取り組みです。今日を大事に現状をしっかりと見つめながら、10年先を考えた歩みを私達も真高寺と共に目指して行きたいと思います。

道元禪師のおことば

「後日を待って行道せんと思ふことなかれ
ただ今日今時を過さずして 日々時々を勤むべきなり」
(正法眼蔵随聞記)

おことばの意味

「時期が来たら始めようと思わないで、やろうと思ったその時から始めよう。
そして、その時々によらねばならないことをやって、悔いのない人生にしよう」

万福多幸

住職 伊澤孝順



明けましておめでとう御座居ます。本年もよろしくお願い致します。

東日本大震災が起きて早や2年目に入り、少しずつ復興の兆しがみえはじめていますが、被害を受けられた住民の方々が安心出来るには、ほど遠いように思えます。今後も寺として被害者に何が出来るかを考えて行きたいと思っています。

ここ数年前より自然災害が毎年多くなってくると、不安さを感じられます。地震の多発や温暖化による低気圧の猛威など、切りなく起きる自然現象に如何に対処すべきかを考えるとき、万全を期することは当然ですが、常に変化している自然の中で生きている我々を自覚することに依って、全ての人々が万福多幸になるよう互助の心を養って行かなければならないと思います。

永平寺参拝団に参加して

根本良子



曹洞宗千葉県宗務所第16教区護持会主催の「永平寺参拝と北陸名刹参拝三日間の旅」に参加しました。11月5日、104名の参加者が3台のバスに分乗し、一路北陸を目指して出立しました。途中はまだ紅葉に少し早く、お茶畑、蜜柑や柿の畑、そして時折海や河川と、美しく移り変わる車窓の風景を楽しみつつ、道元禪師様のお開きになった永平寺には二時半に到着しました。

大本山永平寺は昼なお暗き杉の大木に囲まれ、荘厳な境内の凜とした空気に身も心も洗い清められる感じでした。伽藍の中の回廊の階段を何段上ったことでしょうか。修行僧や大僧正様により、参加した檀家の法要が行われ、さらに永平寺の開山の謂れなどのお話をお聞きし、安堵の内に永平寺を後にして、一日目の宿の山中温泉に向かいました。翌日は能登の曹洞宗大本山總持寺祖院を参拝しました。祖院は前回参拝した時とは違い、中越地震により大きく被災し、目を覆うような有様で、大きな建物が幕で囲われて大改修の最中でした。トイレだけは皆様が参拝された時に困るからと、新築されたそうです。二日目の最後の夜は憧れの加賀屋に泊まりました。三日目は曹洞宗洞谷山永光寺に参拝しました。こちらは、毎年大雪で屋根瓦が被害に遭って剥がれてしまうと言うことでした。寺を支えている檀家は、僅かに70戸余だそうですが、実にきれいに手入れされておりました。お寺の修繕の多くは参拝者の浄財によるとのことでした。

今回の旅は姉妹で参加できたこと、それに同行した他のお寺の檀家の皆様とも親しくなれたことが、何よりの忘れられない思い出となりました。

山内あれこれ

皆様のご寄進ご奉仕に大感謝

少し小さ目でしたけど…

参道入り口右手の「六地藏」さん用にと、徳氏の大岩桂子様のご自身の手編みで赤い毛糸の帽子をご寄進下さいました。昨春、俳句の会で真高寺を訪れた際に、お地藏さんに出会ったこと思い出ったとのことです。「お地藏さんの頭が意外に大きかったので、少し帽子が小さかったようです。でもこの次はピッタリサイズの帽子を編んで届けます」と朗らかに話されておりました。



新しい幟旗です

8月の下旬に飯給の木村弥さんが「水子地藏尊」「観世音菩薩」「地藏菩薩」の赤い幟旗を寄贈してくださいました。参道入口でも、水子地藏尊前の境内でも美しく風にはためいています。変わらぬお志を毎年ありがとうございます。



いつも季節の花をありがとう

11月下旬、飯給の金巻いちさん、加藤美枝さんの二人で参道入り口にチューリップの球根を植え、他の草花の周りの草取りをして下さいました。また美枝さんの弟の根里さんが刈り取った草を運び出してくれました。



宮原 忠夫 氏

お世話になりました

高滝地区総代の宮原忠夫さんが、一身上の都合で昨年10月をもって退任されました。ありがとうございました。

なお、後任には屋号「麴屋」の根本保男さんが就任されました。宜しくお願い致します。



根本 保男 氏

少し先のことですが

鐘楼のすぐ先に無縁塚があります。茅や笹竹などが積まれた墓石の間から繁茂して悩みの種でした。これを東石材さんによって、春までに霊園の方に移設します。その跡地をどうするかは検討中ですが、例えばダルマさんのお焚き上げ場にするなど、色々と考えております。



塔婆のお焚き上げをします



平成24年のお焚き上げは、12月30日(日)の朝9時に行います。不要となった塔婆がありましたら、第一駐車場(参道左手の大きな駐車場です)まで持参して下さい。駐車場の中央にお焚き上げ場を用意しました。なお、当日でなくとも前日まででも構いませんが、仏壇や紙類はご遠慮ください。

だるま 福達磨を差し上げます

例年、除夜の鐘を打ち終えた後、皆様のこの一年が良き年でありますよう、本堂で新年祈祷会を行っております。昨年、新年祈祷会に参加された参拝者の皆様(各世帯)に、お寺より祈祷だるま(50体用意)を先着順でお渡ししております。帰宅後に片目を入れて、希望が叶ったら、再び除夜の鐘の時に寺に持参して焚き上げ、新しい福達磨をお持ち帰り下さい。



2023

鎌倉の長谷寺ではありません



平成25年の初詣は、1月27日(日)に行いますが、鶴見の總持寺を参詣した後で「長谷寺」となっています。これを鎌倉の長谷寺と勘違いされそうですが、これは大本山永平寺の東京別院のお寺で、西麻布にある長谷寺(はせうじ)です。そこを参拝した後で、東京スカイツリーの展望台に上るコースとなります。

立派な宮大工さんになって下さい



山門改修でご尽力頂いた市文化財センター長の田所真先生の四男さんが、現在埼玉県行田市にある「ものづくり大学」の技能工芸学部建設学科3年生だそうです。12月の初めに文化財センターに田所さんを訪ねた際、先生からお聞きしました。何でも、真高寺の山門改修時に中学3年生だった彼は、工事現場を見学して、すっかり宮大工さんになることに憧れたそうです。そして迷いなく進まれたとのこと。先の東日本大震災後の山門影響調査の際も、風基建設の社長さんに同行して調査に来られたそうです。

花まつり法会は4月7日です



お釈迦様の御誕生日は4月8日(月)ですが、花まつり法会を4月7日(日)に行います。当日は午前10時より本堂にて各家の位牌の前で先祖供養を行います。続いて子供達に飾ってもらった甘茶仏の花まつり法会を行います。当日の参拝者には、お菓子と花の苗をお渡しします。皆様のご来山をお待ちしております。

春にはホームページを立ち上げます



山門を改修して以来、多くの来山者が見えるようになりました。また市のアートミックスなどの大イベントが予定されています。そこで前々からの懸案でありました真高寺のホームページを5月頃までに立ちあげることといたしました。幸い今年中にはNTTにより加茂地区にも光ケーブルが敷設されるそうです。また併せて簡単なお寺のパンフレットも作成することとなりました。これには、改修事業で大変にお世話になりました市原市文化財センター長の田所先生に、お寺の歴史や波の伊八について記述をお願いする事にしています。

多くの方が来られました

平成24年山門見学者(見学ノートより)

一般見学者

市原市内の方…44名 市外の方…79名

集団見学者

10月11日 天津小湊公民館主催事業「郷土歴史教室」…40名

11月13日 市原市シルバー・カレッジ「歴史講座」……50名



檀信徒の皆様へ

ご貴家で、万一ご不幸がありました時は、必ず早めに寺の方にご一報下さるようお願いいたします。

また、寺にご意見やご不明な点がありましたら、遠慮なくお問い合わせ下さい。

編集後記

市原市が市制施行50周年を記念して行う「市原アート×ミックス」では、市は期間中に約20万人が訪れるとされています。こうした取り組みは既に三年に一度、香川県の高松市を中心とした「瀬戸内国際芸術祭」、そして新潟県十日町市での越後妻有「大地の芸術祭」として行われています。これに市原市が加わることで、三年に一度のトリエンナーレ方式が毎年持ち回りで開催となります。先行する二カ所が首都圏から遠く離れた所であるのに対して、南市原は首都圏の55キロ圏内であり、予想を超える来訪者があるのではないかととも言われています。南市原の中でも存在感のある真高寺は、それ故に地域と連携してしっかりと対応をする必要があります。今春のホームページの開設もそうした対応の一つです。最大の問題はバス来訪者に対する第一駐車場までの進入路対策です。